



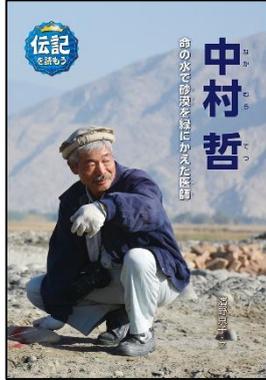
詳しくはこちら

中村哲 命の水で砂漠を緑にかえた医師

濱野京子／文

【あかね書房】1,650 円

35年もの間、パキスタンとアフガニスタンで活動した中村哲。初めは医師として赴任した哲は、貧しい山岳地帯の診療所で、ハンセン病患者など多くの人を救いました。その後、井戸を掘り用水路をひくなどの治水事業、そして農業などの活動を始めます。医療行為ではないように見えるそれらも、すべて命を守るための行動なのです。その生き方を通じて、命を守ること、世界平和、地球環境についてなど多くのことを考えていきたい。



ラベンダーとソプラノ

額賀滯／作 いつか／絵

【岩崎書店】1,650 円

小学6年生の真子は、合唱クラブに入っている。「今年こそ、コンクールで金賞を」と意気込んでいるけれど、プレッシャーと厳しい練習で、合唱クラブは崩壊寸前。そんなとき、真子は美しいボーイソプラノを持つ少年・朔と出会う。朔に連れいかれた商店街の合唱団は、練習もゆるゆるだし、全然上手じゃない——でも、みんなとても楽しそうだった。「わたしの頑張り方は、間違っていたんだろうか？」



ぼくのシェフ

長谷川まりる／作 西村ツチカ／絵

【くもん出版】1,650 円

13歳のシャルルは、国いちばんの料理人である父のあとを継ぐために修行をつづけている。ある時、慈善団体の活動に参加したシャルルは、貧民街で暮らすアズレと出会う。アズレのもつ天才的な料理の才能に気づいたシャルルは、彼に料理を教えることにするが、ふたりの関係は唐突に終わってしまう。そして、あの奇病が国に広がった2年後……。料理をテーマに、ふたりの少年の友情と食べること、そして命について描いた物語。



人間になりたかった犬

今西乃子／作 福田岩緒／絵

【新日本出版社】1,650 円

「犬童神社」の宮司・犬養尊。彼が犬から人間に生まれ変わったのは50年前。実は、白い犬ならどんな犬でも人間に生まれ変わるわけではなく、『人間を救った犬』でなければ、生まれ変わらない。そんな尊が、神社で飼われている犬のシロにたずねた。「シロ、いつまで犬のままにいるつもりなんだい?」。シロはため息をつきながら聞いた。「お師匠さんは、いったい人間のためにどんないいことをしてやったんです?」...



思いがけず、朝子ちゃん

高村有／作 せきやよい／絵

【童心社】1,650 円

人間関係のストレスで会社を辞めた深山朝子は、祖母の花屋「ミヤマ花壇」を手伝うことに。そんな朝子と、5人の小・中学生が出会い、紡がれる5つの物語。TPOをわきまえた“正しい私服”に悩む高橋美月、第一人称を「わたし」と言えない川田みちる、親の再婚でふさぎこむ小林ふみか……など、それぞれが朝子と思いがけなく出会うことで、何かが変わっていく——。本作で、第55回児童文芸新人賞を受賞した高村有のデビュー作。



挫折しそうなときは、左折しよう

マーク・コラジヨバンニ／文 ピーター・レイノルズ／絵

成田悠輔／訳 【光村教育図書】1,650 円

「なにをやってもうまくいかない。なんでかさっぱりわからない!」そんなとき、どうする? 不安、迷い、おそれ、イライラをどうしたらいい? 時には思い切って、いつもと真逆のことをしてみると……。だれだってモヤモヤしたり、ビクビクしたり、イライラしたりするものです。そんなよくある悩みとの付き合い方をユーモラスに提案する、ちよっぴり哲学する絵本。

